

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	新潟デザイン専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養専門課程	デジタルデザイン科	夜・通信	1,122 単位時間	240 単位時間	
	グラフィックデザイン科	夜・通信	836 単位時間	160 単位時間	
	イラストレーション科	夜・通信	946 単位時間	160 単位時間	
	キャラクターイラストデザイン科	夜・通信	1,034 単位時間	160 単位時間	
	美術・造形デザイン科	夜・通信	954 単位時間	160 単位時間	
	写真デザイン科	夜・通信	1,034 単位時間	160 単位時間	
	雑貨・ジュエリーデザイン科	夜・通信	902 単位時間	160 単位時間	
	デザインマスターズ科	夜・通信	462 単位時間	80 単位時間	
	クリエイティブデザイン科	夜・通信	440 単位時間	320 単位時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPによる公表： https://ncadnet.jp/information/support/practice.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟デザイン専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPによる公表： https://ncadnet.jp/information/support/board.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2023年6月 1日～2027 年5月31日	政策的観点
非常勤	団体職員	2023年6月 1日～2027 年5月31日	教育統括的視点
非常勤	弁護士	2023年6月 1日～2027 年5月31日	法的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟デザイン専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>	
授業計画書の公表方法	HP: https://ncadnet.jp/information/support.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。 ② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。 ③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象) ④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は原則として科目毎に1学期末、2学期末、3学期末の時点でそれぞれ評価する。1学期、2・3学期を総合した通年評価の成績評価が各自に成績表として提示され、成績表にはA、B、C、Dの評価と、成績評価の客観的指標としてG P Aによるポイントが記載される。</p> <p>授業科目ごとの成績を下記ポイントに数値化し、授業科目毎のポイントを合計し授業科目数で割りスコアを算出。そのスコアをもって成績分布を算出する。小数点第二位は四捨五入。</p> <p>A評価 (優 80~100) : 4 P B評価 (良 70~79) : 3 P C評価 (可 60~69) : 2 P D評価 (不可 0~59) : 0 P</p> <p>(A評価×4 P×科目数) + (B評価×3 P×科目数) + (C評価×2 P×科目数) + (D評価×0 P×科目数) ÷総科目数=スコア</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://ncadnet.jp/information/support/grad.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>デザイン・クリエイティブ業界にかかわる職業人として、学科毎の分野の制作等に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身につけることを修学の目的とする。この目的に従い科目毎の成績評価を行い、下記卒業資格と合わせ審査し認定を行う。</p> <p>卒業資格：卒業を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の卒業判定会議において審議され決定する。(校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査)</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。 ③ 卒業制作が合格であること。 ④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。</p> <p>猶予処置：卒業資格に規定する条件を満たさない者で、その内容が専門科目に対する者で以下の条件を満たすものは卒業追試験または追課題資格が与えられる。 a. すべての科目の平均点が60点以上であること。B. 担任及び学科長が猶予処置を認めた時。C. 卒業判定会議時に猶予処置を認めた時。但し、卒業追試験または追課題を受験する者は、指定期日までに別途定める追試験料又は追課題料を添えて受験手続を行わなければならない。</p> <p>出席不足の補講(一教科)4,000円、成績不良の追試又は追課題(一教科)2,000円を請求する。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	HP : https://ncadnet.jp/information/support/grad.pdf 学生必携

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	新潟デザイン専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://ncadnet.jp/information/support/zaimu_2.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://ncadnet.jp/information/support/zaimu_3.pdf
財産目録	https://ncadnet.jp/information/support/zaimu_4.pdf
事業報告書	https://ncadnet.jp/information/support/zaimu_1.pdf
監事による監査報告（書）	https://ncadnet.jp/information/support/zaimu_5.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	デジタルデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,964 単位時間	187 単位時間		2,777 単位時間		
			2,964 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
45人		49人	0人	4人	13人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）（概要）授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。</p> <p>② 9月：次年度の始動方針を決定。</p> <p>③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。</p> <p>④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。</p> <p>⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。</p> <p>⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。</p> <p>⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。</p> <p>② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。</p> <p>③ 評価基準</p>

<p>A評価(優 80 ～100) B評価(良 70 ～ 79) C評価(可 60 ～ 69) D評価(不可 0 ～ 59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象)</p> <p>考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) デザイン・映像・IT 業界にかかわる職業人として、デジタルコンテンツ制作・ムービー制作作業、インターネット付随サービス業・商業デザイン(グラフィックデザイン)業など、様々な分野に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身に付けることを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。(校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。 ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。 ④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。 <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

<p>卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)</p>			
<p>卒業者数</p>	<p>進学者数</p>	<p>就職者数 (自営業を含む。)</p>	<p>その他</p>
<p>5人 (100%)</p>	<p>1人 (20%)</p>	<p>3人 (60%)</p>	<p>1人 (20%)</p>
<p>(主な就職、業界等) デザイン系企業(広告業界)、映像制作系企業、webデザイン制作企業等</p>			
<p>(就職指導内容) 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等)) 2022年度実績 コミュニケーション検定合格率100%、CGクリエイター検定合格率75%、色彩士検定合格率91%、コンペ入賞数24点</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	グラフィックデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,976 単位時間	264 単位時間		1,712 単位時間		
			1,976 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		131人	0人	4人	10人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。 ② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。 ③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象) ④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）グラフィックデザイン業界にかかわる職業人として、広告・印刷・商業デザイン制作に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身に付けることを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。(校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査)</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。 ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。</p>

④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。
なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。
学修支援等
(概要) ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
55人 (100%)	2人 (3.6%)	44人 (80%)	9人 (16.4%)
(主な就職、業界等) デザイン系企業（広告・印刷業界・イベントプランニング）等			
(就職指導内容) 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2022年度実績 コミュニケーション検定合格率100%、POP広告クリエイター 技能審査試験合格率100%、色彩士検定合格率90.5%、 コンペ入賞数53点			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
120人	2人	1.7%
(中途退学の主な理由) 学業不振、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	イラストレーション科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,976 単位時間	154 単位時間		1,822 単位時間		
			1,976 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		59人	0人	4人	13人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。</p> <p>② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。</p> <p>③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象) 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）イラストレーション制作の様々な表現方法や技術を習得し、広告デザイン・グラフィックデザイン・似顔絵など様々な分野に関わる専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身に付けることを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。(校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査)</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。 ④ 出席数が科目ごとに 80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。 <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
41 人 (100%)	3 人 (7.3%)	29 人 (70.7%)	9 人 (22%)
(主な就職、業界等) デザイン系企業（広告・印刷業界・web, IT 業界）一般企業（企画・営業）等			
(就職指導内容) 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他			
(主な学修成果（資格・検定等））2022 年度実績 コミュニケーション検定合格率 95.5%、POP 広告クリエイター技能審査試験合格率 100%、色彩士検定合格率 86.9%、コンペ入賞数 51 点			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65 人	1 人	1.5%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	キャラクターイラストデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,976 単位時間	132 単位時間		1,844 単位時間		
			1,976 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		53人	0人	3人	11人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。 ② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。 ③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象) 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）キャラクターデザインを職業とする上で必要な企画・制作からイラストレーション、デザインの知識・技術を習得。また、ブランディングを意識したキャラクターの企画・制作・提案等ができるデザイン力を備えたデザイナーの育成を目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。(校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査)</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。 ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。</p>

④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。
なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。
学修支援等
(概要) ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27人 (100%)	1人 (3.7%)	24人 (88.9%)	2人 (7.4%)
(主な就職、業界等) デザイン系企業（広告・印刷業界・web, IT 業界）等			
(就職指導内容) 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2022年度実績 コミュニケーション検定合格率92%、色彩士検定合格率81.8%、コンペ入賞数18点			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50人	1人	2%
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等		

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	美術・造形デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,976 単位時間	374 単位時間		1,602 単位時間		
			1,976 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		5人	0人	3人	9人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。 ② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。 ③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象) ④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）油彩・版画・現代アートの絵表現、彫刻・陶芸・造形等の知識・技術を習得し、アーティストとしての表現を追求すると共に、ブランディングを意識したアートの企画・制作・提案等ができるデザイン力を備えたクリエイターを目指す事を目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。(校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査)</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。 ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。</p>

<p>④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。</p> <p>⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。</p> <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	3人 (60%)	1人 (20%)	1人 (20%)
(主な就職、業界等) デザイン系企業（広告業界）			
(就職指導内容) 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他			
(主な学修成果（資格・検定等））2022年度実績 コミュニケーション検定合格率66.7%、色彩士検定合格率100%、コンペ入賞数5点			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	写真デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,976 単位時間	242 単位時間		1,734 単位時間		
			1,976 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		24人	0人	3人	8人	12人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。</p> <p>② 9月：次年度の始動方針を決定。</p> <p>③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。</p> <p>④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。</p> <p>⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。</p> <p>⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。</p> <p>⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。</p> <p>② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。</p> <p>③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象)</p> <p>④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) デザイン・写真業界にかかわる職業人として、広告・印刷・フォト・商業デザイン制作等に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身につけることを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。(校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査)</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。</p> <p>② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。</p> <p>③ 卒業制作・修了制作が合格であること。</p>

<p>④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。</p> <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	14人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) スタジオ・ブライダル業界、写真業界 等			
(就職指導内容) 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 2022 年度実績 コミュニケーション検定合格率 90.9、フォトマスター検定合格率 3 級 100%、 フォトマスター検定合格率 2 級 27% コンペ入賞数 25 点			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	2 人	7.4%
(中途退学の主な理由) 体調不良 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	雑貨・ジュエリーデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,976 単位時間	286 単位時間		1,690 単位時間		
			1,976 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		24人	0人	3人	8人	11人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。 ② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。 ③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象) ④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) 雑貨・ジュエリーのデザイン・制作・販売業界にかかわる人材として、木工制作・ファッション雑貨制作・ジュエリー制作、販売サービス業・商業デザイン業など、様々な分野に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身に付けることを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。(校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査)</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。 ④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。 <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	12人 (75%)	4人 (25%)
(主な就職、業界等) ジュエリー（製造職・販売職）、雑貨（販売職）、アパレル（販売職）等			
(就職指導内容) 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他			
(主な学修成果（資格・検定等））2022年度実績 コミュニケーション検定合格率64.3、POP広告クリエイター技能審査試験合格率100%、技能検定（貴金属装身具製作）合格率90%、コンペ入賞数28点			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	デザインマスターズ科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	988 単位時間	132 単位時間		856 単位時間		
			988 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
5人		5人	0人	3人	4人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。 ② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。 ③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象) ④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）デザイン・クリエイティブ業界で即戦力となる専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身に付けることを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。(校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査)</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。 ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。</p>

<p>④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。</p> <p>⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。</p> <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
21人 (95.5%)	1人 (4.8%)	17人 (81%)	3人 (14.3%)
(主な就職、業界等) デザイン系企業（広告・印刷業界・web, IT 業界）等			
(就職指導内容) 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談 他			
(主な学修成果（資格・検定等））2022年度実績 コンペ入賞数2点			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	クリエイティブデザイン科(美術・造形デザインコース)		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,886 単位時間	506 単位時間		3,380 単位時間		
			3,886 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人 (全コース)		(全コースの内数) 3人	0人	4人	8人	12人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。</p> <p>② 9月：次年度の始動方針を決定。</p> <p>③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。</p> <p>④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。</p> <p>⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。</p> <p>⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。</p> <p>⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。</p> <p>② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。</p> <p>③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象)</p> <p>④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) 油彩・版画・現代アートの絵表現、彫刻・陶芸・造形等の知識・技術を習得し、アーティストとしての表現を追求すると共に、ブランディングを意識したアートの企画・制作・提案等ができるデザイン力を備えたクリエイターを目指し、応用・研究力を養うことを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、</p>

<p>年度末の各判定会議において審議され決定する。（校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。 ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。 ④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。 <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） デザイン系企業</p>			
<p>（就職指導内容） 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 美術・造形デザイン科同様検定を受験</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
<p>（中途退学の主な理由）</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等</p>		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	クリエイティブデザイン科(イラストレーションコース)		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,886 単位時間	264 単位時間		3,622 単位時間		
			3,886 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人 (全コース)		(全コースの内数) 1人	0人	4人	8人	12人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。</p> <p>② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。</p> <p>③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象)</p> <p>④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) イラストレーション制作の様々な表現方法や技術を習得し、広告デザイン・グラフィックデザイン・似顔絵など様々な分野に関わる専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身に付け、デザイン力を備えたクリエイターを目指し、応用・研究力を養うことを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級</p>

<p>を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。（校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。 ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。 ④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。 <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
6人 (100%)	0人 (0%)	6人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) デザイン系企業、作家 等			
(就職指導内容) 就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他			
(主な学修成果(資格・検定等)) イラストレーション科同様検定を受験			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	クリエイティブデザイン科(グラフィックデザインコース)		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,886 単位時間	374 単位時間		3,512 単位時間		
			3,886 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人 (全コース)	(全コースの内数) 1人	0人	4人	8人	12人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。</p> <p>② 9月：次年度の始動方針を決定。</p> <p>③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。</p> <p>④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。</p> <p>⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。</p> <p>⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。</p> <p>⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。</p> <p>② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。</p> <p>③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象)</p> <p>④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) グラフィックデザイン業界にかかわる職業人として、広告・印刷・商業デザイン制作に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身に付け、応用・研究力を養うことを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判</p>

<p>定会議において審議され決定する。（校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査）</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。</p> <p>② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。</p> <p>③ 卒業制作・修了制作が合格であること。</p> <p>④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。</p> <p>⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。</p> <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>デザイン系企業（広告・印刷業界・イベントプランニング）等</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>グラフィックデザイン科同様検定を受験</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <p>クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等</p>		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	クリエイティブデザイン科(キャラクターイラストコース)		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,886 単位時間	264 単位時間		3,622 単位時間		
			3,886 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人 (全コース)		(全コースの内数) 2人	0人	4人	8人	12人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。 ② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。 ③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象) ④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) キャラクターデザインを職業とする上で必要な企画・制作からイラストレーション、デザインの知識・技術を習得し、ブランディングを意識したキャラクターの企画・制作・提案等ができるデザイン力を備えた、応用・研究力を養うことを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議におい</p>

<p>で審議され決定する。（校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査）</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。</p> <p>② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。</p> <p>③ 卒業制作・修了制作が合格であること。</p> <p>④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。</p> <p>⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。</p> <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>デザイン系企業（広告・印刷業界）等</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>キャラクターイラストデザイン科同様検定を受験</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0%
<p>（中途退学の主な理由）</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <p>クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等</p>		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	クリエイティブデザイン科(デジタルデザインコース)		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,886 単位時間	253 単位時間		3,633 単位時間		
			3,886 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人 (全コース)		(全コースの内数) 1人	1人	4人	8人	12人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 授業計画の制作は、学科毎に専任教員・兼任教員によって構成する教育編成委員会を中心に制作を行い、関係者企業・学校評価委員などの意見を反映させながら決定する。</p> <p>① 8月：教育課程編成委員会開催。各委員の意見を反映。 ② 9月：次年度の始動方針を決定。 ③ 10月：非常勤講師・企業等の意見も反映し授業内容についての見直しの実施。 ④ 11月：次年度授業計画案を作成開始。 ⑤ 2月：タイムテーブル調整・決定。 ⑥ 3月：非常勤講師へ正式依頼。最終授業計画決定。 ⑦ 4月：在校生及びHP上に公表</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) 成績評価は原則として各科目別で行われ、学期末毎に評価を行う。</p> <p>① 成績評価は、授業姿勢・出席率・試験・課題提出状況・作品完成度・科目修了時のプレゼンテーション等を勘案して評価を行う。 ② 年間授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者で、学期末試験において評価点(可)以上を合格とする。 ③ 評価基準 A評価(優 80～100) B評価(良 70～79) C評価(可 60～69) D評価(不可 0～59)※D(不可は不合格の為、追試・追課題対象) ④ 考查基準として、各学期末に授業実施時間の80%以上出席し、課題制作100%の者が対象となる。これ以外は学期末試験を受験できない為、追試・追課題を受けなければならない。(D評価の場合、追試験等に合格すればC評価になる。)</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) デザイン・映像・IT業界にかかわる職業人として、デジタルコンテンツ制作・ムービー制作作業、インターネット付随サービス業・商業デザイン(グラフィックデザイン)業など、様々な分野に関わる技術等について、専門的な知識・能力を身に付け、その知識に基づく実習を通して実務に関する実践的な技術・技能を身に付け、応用・研究力を養うことを目的とする。この目的に従い科目毎達成目標を基に</p>

<p>成績評価を行う。卒業・進級資格：卒業・進級を許可される者は下記の条件を全て満たした者とし、年度末の各判定会議において審議され決定する。（校長・事務局長・教務部長・各学科長等による内容審査）</p> <p>① 必修科目全て「C評価」以上であること。 ② 選択必修科目において、別に定める授業時間以上満たしていること。 ③ 卒業制作・修了制作が合格であること。 ④ 出席数が科目ごとに80%以上であること。 ⑤ 学費及びその他納付金を納めた者。</p> <p>なお、猶予処置については卒業の認定に関する方針同様とする。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談・指導等の対応、個別作品指導等 ・本人のみ又は保護者を交えた対応、個別面談等 ・希望制のスクールカウンセリング制度 ・学費相談者への奨学金や各種ローンの相談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等）</p> <p>デザイン・web系企業</p>			
<p>（就職指導内容）</p> <p>就職活動の仕方、企業研究等、就職実務授業で実施 就職研修においてビジネスマナーや履歴書添削 個別面談、三者面談の実施 他</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等））</p> <p>デジタルデザイン科同様検定を受験</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
<p>（中途退学の主な理由）</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組）</p> <p>クラス担任による個別面談、様子の変化などの早期発見と保護者との連携、カウンセリング制度の活用 等</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
デジタルデザイン科	70,000 円	540,000 円	570,000 円	施設設備費・設備維持費・実験実習料
グラフィックデザイン科	70,000 円	540,000 円	570,000 円	施設設備費・設備維持費・実験実習料
イラストレーション科	70,000 円	540,000 円	570,000 円	施設設備費・設備維持費・実験実習料
キャラクターイラストデザイン科	70,000 円	540,000 円	570,000 円	施設設備費・設備維持費・実験実習料
美術・工芸デザイン科	70,000 円	540,000 円	580,000 円	施設設備費・設備維持費・実験実習料
写真デザイン科	70,000 円	540,000 円	570,000 円	施設設備費・設備維持費・実験実習料
雑貨・ジュエリーデザイン科	70,000 円	540,000 円	570,000 円	施設設備費・設備維持費・実験実習料
デザインマスターズ科	70,000 円	540,000 円	570,000 円	施設設備費・設備維持費・実験実習料
クリエイティブデザイン科	70,000 円	540,000 円	570,000 円	施設設備費・設備維持費・実験実習料
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP : https://ncadnet.jp/information/
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
<p>(1) 評価項目</p> <p>1. 教育理念・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は、特色、将来構想などが学生、保護者に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか <p>2. 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか

- ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3. 教育活動

- ・教育理念などに沿った教育課程の編成、実施方策などが策定されているか
- ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
 - ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
 - ・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか
 - ・関連分野の企業、関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
 - ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか
 - ・授業評価の実施・評価体制はあるか
 - ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
 - ・成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか
 - ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
 - ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
 - ・関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか
 - ・関連分野における先端的な知識、技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
 - ・職員の能力開発のための研修などが行われているか

4. 学修成果

- ・就職率の向上が図られているか
- ・資格取得率の向上が図られているか
- ・退学率の低減が図られているか
- ・卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

5. 学生支援

- ・進路、就職に関する支援体制は整備されているか
- ・学生相談に関する体制は整備されているか
- ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- ・課外活動に対する支援体制は整備されているか
- ・学生の生活環境への支援は行われているか
- ・保護者と適切に連携しているか
- ・卒業生への支援体制はあるか
- ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- ・高校、高等専修学校との連携によるキャリア教育、職業教育の取組が行われているか

6. 教育環境

- ・施設設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- ・防災に対する体制は整備されているか

7. 学生の受入れ募集

- ・学生募集活動は適正に行われているか

- ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- ・学納金は妥当なものとなっているか

8. 財務

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- ・財務について会計監査が適正に行われているか
- ・財務情報公開の体制整備はできているか

9. 法令等の遵守

- ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- ・自己評価結果を公開しているか

10. 社会貢献・地域貢献

- ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献、地域貢献を行っているか
- ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- ・地域に対する公開講座、教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

(2) 評価委員会の構成

- ・デザイン業界では、基本的な技術、知識を基に、最新の多様な変化に対応できる知識技術が求められている。そのため、県内及び県外の就職先企業、インターンシップ先等の各企業等と連携し、現在業界の求めている人材像やスキル等の動向を把握、分析し、専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目、授業内容の改善工夫などを行うために、教育課程編成委員会を設け、教育内容の質の向上に継続的に務める。
- ・委員は若干名とし、①各校の専門分野における業界関係者（就職先企業、業界団体など）②卒業生③高校教諭等、目的を達成するために必要と認められる方等をもって充てる。

(3) 評価の活用方法

- ・評価活動を通じたコミュニケーションにより、外部の学校関係者と学校がお互いに理解を深める学校関係者評価の重要な目的は、評価という協同作業を通して、学校と学校に関係する方々が、お互いに理解を深めることである。
- ・委員の方々が評価活動に参加することで、普段は目にする事のない教職員の業務や取り組みを知ることができる。また学校は、学校を取り巻く人々からどのように見られているかを知ることによって、普段の教育活動を振り返るきっかけができる。
- ・学校の自己評価の客観性、透明性を高める学校評価の基本は、学校の自己評価である。
- ・学校は自身の教育活動を振り返って成果や課題を分析し、それに基づいて改善案を検討する。その自己評価が、外部の学校に関係する方々の目から見ても違和感なく受け入れられるかについて意見をいただき、自己評価の客観性、透明性を高めていく。
- ・教育課程編成委員会は、原則として毎年度2回以上実施するものとする。1回目は前年度の授業成果について検証し、授業に向けての意見を集める。2回目の実施は前期の報告と振り返りを行い、後期に向けての意見を集める。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社アドハウス・パブリック	令和3年4月1日～令和6年3月31日	企業等委員
アイプラス	令和3年4月1日～令和6年3月31日	卒業生

作家	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP : https://ncadnet.jp/information		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP : https://ncadnet.jp/
